特集3

戦没者追悼式

平和への願いをこめて

11月15日、曽於市戦没者追悼式が末吉総合センターで行われました。式では献詠や献花が行われ、参列者一人ひとりが戦没者の冥福を祈りました。

平和メッセージでは末吉小６年の東蓮仁さんが、夏休みに参加した戦争遺跡を巡るツアーをとおして感じた戦争の悲惨さや、平和への思いを朗読しました。

参列者は平和と繁栄の陰には多くの尊い犠牲があったことを後世に伝えたいと、戦火のない平和への誓いを新たにしました。

平和メッセージを朗読した東蓮仁さん

平和メッセージ

「平和のためにできることは」

末吉小６年　東　蓮仁

ぼくは夏休みに、曽於市の戦争遺跡を巡るツアーに参加しました。「戦争は悲惨なものだ。二度とあってはいけない。」という思いが強くなりました。ぼくは、もともと曽於市の歴史に興味があって、古い神社などを見学することがよくあります。覚照寺に行ったときのことです。天井や柱など至る所に銃弾の貫通した跡がありました。本物の銃弾もあり、その鋭さに怖くなりました。そして、戦争の時、ぼくたちの町では、何があったのかを知りたくなりました。ツアーでは、岩川飛行場跡や持留橋、芙蓉之塔、地下発電所などを回りました。地下発電所は、敵に見つからないように地下十二メートルのところに機械を置き、発電していたそうです。今は広い空間になっています。そこにいると、周りの人に忘れられているさみしい場所に感じました。また、芙蓉之塔は、沖縄に向けて飛び立ち、亡くなった人たちの魂がまつられていることも知りました。ぼくは悲しい気持ちになりました。ぼくの住んでいる町でも、本当に戦争があったのだと改めて実感しました。

「今の世の中は平和ですか。」とたずねられたら、ぼくは「いいえ」と答えます。それは、ウクライナやロシアでたくさんの人々が亡くなったり、北朝鮮でミサイルがひんぱんに発射されたりしているからです。そのニュースを聞くと、また悲しい歴史をくり返すのではないかと心配です。世界中の人たちが幸せにくらすことができたらいいなと思います。

そしてぼくは、「ぼくにできることは何だろう」と考えてみました。世界中の人たちにうったえたり活動したりすることは難しいですが、戦争の歴史を知ること、たくさんの大切な命によって、ぼくたちが今ここに、幸せに暮らしていることを忘れたくないと思います。そして、自分が学んだことを周りの友達にも少しずつ伝えていきたいと思います。